

Odes to Nature

Art Nouveau Glasswork by Gallé and Daum

「特別展」アール・ヌーヴォーのガラス

ガレとドームの自然賛歌

2023年4月18日《火》～6月11日《日》

開館時間 = 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

毎週金・土曜日は午後8時まで夜間開館(入館は午後7時30分まで) ※夜間開館の実施については、ホームページでご確認ください。

休館日 = 毎週月曜日(ただし5月1日〔月〕は開館)

主催 = 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、RKB毎日放送、西日本新聞イベントサービス

共催 = (公財)九州国立博物館振興財団

特別協力 = 北澤美術館、太宰府天満宮

協力 = 国際ソロプチミスト太宰府

後援 = 福岡市、太宰府市、太宰府市商工会、太宰府観光協会

※作品名称については、エミール・ガレ、もしくはドーム兄弟自身が付けたものは、「 》で表記した。後年に付けられたものは「 」で表記した。補足情報は()で表記した。

出品目録



魚文高脚杯(部分)
エミール・ガレ フランス 1895-1904年
北澤美術館

必見!
技法解説
ついてます!!



九州国立博物館

[太宰府天満宮横]

作品番号	作品名称	作者・製作地	来歴など	国・時代	年代世紀	所蔵
プロローグ ガラス工芸の歴史						
1	コアガラス脚杯	エジプト			前14世紀	MIHO MUSEUM
2	コアガラス両耳付瓶	東地中海地域			前5世紀	MIHO MUSEUM
3	ゴールドバンド蓋付容器	イタリア		ローマ時代	前1-後1世紀	MIHO MUSEUM
4	ミルフィオリ皿と杯	東地中海地域あるいはイタリア		ローマ時代	前1-後1世紀	MIHO MUSEUM
5	コアガラス両手付尖底壺	東地中海地域		ローマ時代	前2-前1世紀	MIHO MUSEUM
6	アラバスター文瓶	伝イラン出土		ローマ時代	1世紀	MIHO MUSEUM
7-1	ローマンガラス 広口瓶	東地中海地域		ローマ時代	1-2世紀	九州国立博物館
7-2	ローマンガラス 長頸瓶	東地中海地域		ローマ時代	1-2世紀	九州国立博物館
7-3	ローマンガラス 両手付瓶	東地中海地域		ローマ時代	1-2世紀	九州国立博物館
7-4	ローマンガラス 長頸瓶	東地中海地域		ローマ時代	1-2世紀	九州国立博物館
7-5	ローマンガラス 杯	東地中海地域		ローマ時代	1-2世紀	九州国立博物館
7-6	ローマンガラス 長胴瓶	東地中海地域		ローマ時代	1-2世紀	九州国立博物館
7-7	ローマンガラス 長頸瓶	シリア		ローマ時代	1-2世紀	九州国立博物館
7-8	ローマンガラス 広口瓶	シリア		ローマ時代	1-2世紀	九州国立博物館
7-9	ローマンガラス 長胴瓶	東地中海地域		ローマ時代	1-3世紀	九州国立博物館
7-10	ローマンガラス 両手付瓶	東地中海地域		ローマ時代	3-4世紀	九州国立博物館
7-11	ローマンガラス 両手付二連瓶	東地中海地域		ローマ時代	3-4世紀	九州国立博物館
7-12	ローマンガラス 貼付文把手付瓶	東地中海地域		ローマ時代	4-6世紀	九州国立博物館
8	カットガラス小瓶			初期イスラーム時代	8-9世紀	九州国立博物館
9	ロゼット文把手付瓶	イラン		イスラーム時代	10世紀以降	九州国立博物館
10	吸角器			イスラーム時代	10世紀	九州国立博物館
11	把手付瓶			イスラーム時代	10-11世紀	九州国立博物館
12	長頸瓶			イスラーム時代	12-13世紀	九州国立博物館
13	エナメル彩草花文盆	フィリップ・ジョセフ・プロカール		フランス	19世紀	東京国立博物館
14	エナメル彩草花文小器	フィリップ・ジョセフ・プロカール		フランス	19世紀	東京国立博物館
15	草花文把手付小杯			オーストリア	19世紀	東京国立博物館
16	草花文把手付小瓶			オーストリア	19世紀	東京国立博物館
17	斜格子文小瓶			オーストリア	19世紀	東京国立博物館
18	山水鹿文脚杯			オーストリア	19世紀	東京国立博物館
19	草花文脚杯			フランス	19世紀	東京国立博物館
20	草花文把手付水差			フランス	19世紀	東京国立博物館
21	鳥獣文脚杯			オランダ	19世紀	東京国立博物館
22	パルメット文栓付瓶			イギリス	19世紀	東京国立博物館
23	蛙に蜻蛉文栓付水注	トーマス・ウェッブ		イギリス	19世紀	東京国立博物館
24	カットガラス脚杯			イギリス	19世紀	東京国立博物館
25	カットガラス栓付瓶			イギリス	19世紀	東京国立博物館
26	カットガラス金彩蓋付鉢・平皿		紀州徳川家旧蔵	イギリス	19世紀	東京国立博物館

作品番号	作品名称	作者・製作地	来歴など	国・時代	年代世紀	所蔵
27	カットガラス金彩鉢		紀州徳川家旧蔵	イギリス	19世紀	東京国立博物館
28	カットガラス着色鉢		紀州徳川家旧蔵	ボヘミア	19世紀	東京国立博物館
29-1	薩摩切子 紅色被栓付瓶			江戸時代	19世紀	九州国立博物館
29-2	薩摩切子 紅色被杯			江戸時代	19世紀	九州国立博物館
30	薩摩切子 紅色被三段重			江戸時代	19世紀	九州国立博物館
第1章 エミール・ガレ						
31	ガーランド文テーブルウェア	エミール・ガレ		フランス	1867年頃	北澤美術館
32	ジャック・カロ人物文祝杯	エミール・ガレ		フランス	1867-1876年	北澤美術館
33	ジャック・カロ人物文祝杯(エナメル彩)	エミール・ガレ		フランス	1879-1884年	北澤美術館
34	ティーカップ&ソーサー	エミール・ガレ		フランス	1878-1889年	北澤美術館
35	騎士にロレーヌ十字文鉢	エミール・ガレ		フランス	年記「1875」	北澤美術館
36	菊にカマキリ文月光色鉢	エミール・ガレ		フランス	1884-1889年	北澤美術館
37	蜻蛉文花瓶	エミール・ガレ		フランス	1890年頃	北澤美術館
38	菊花文鶴頸花瓶	エミール・ガレ		フランス	1900年頃	北澤美術館
39	伊万里風縁飾蓋物	エミール・ガレ		フランス	1884-1889年	北澤美術館
40	色絵菊丸文鶏鈕有蓋大鉢	伊万里(有田)		江戸時代	18世紀前半	九州国立博物館
41	羊歯文伊万里風縁飾皿	エミール・ガレ	1900年バリ万国博覧会出品作	フランス	年記 「Expos.1900」	北澤美術館
42	色絵菊芭蕉図輪花大皿	伊万里(有田)		江戸時代	18世紀前半	九州国立博物館
43	伊万里風縁飾水差	エミール・ガレ		フランス	1889年頃	北澤美術館
44	昆虫文水差	エミール・ガレ		フランス	1884-1889年	北澤美術館
45	蟬文花瓶	エミール・ガレ		フランス	1884-1889年	北澤美術館
46	人物図脚付杯	エミール・ガレ		フランス	1884-1889年	北澤美術館
47	蜚蜉文扁壺	エミール・ガレ	1889年頃のモデル	フランス	1903年頃か	北澤美術館
48	蜻蛉文鶴頸扁瓶	エミール・ガレ	1889年バリ万国博覧会出品モデル	フランス	1889年頃	北澤美術館
49	龍を退治する聖ゲオルギウス花瓶	エミール・ガレ		フランス	1889年頃	北澤美術館
50	オンベル文耳付花瓶	エミール・ガレ		フランス	1895年頃	北澤美術館
51	イスサフラン文長花瓶	エミール・ガレ		フランス	1898年	北澤美術館
52	イスサフラン文耳付鉢	エミール・ガレ		フランス	1898年	北澤美術館
53	花瓶「ニオイアラセイトウ」	エミール・ガレ		フランス	1898年	北澤美術館
54	紫陽花文鉢	エミール・ガレ		フランス	1895-1903年	北澤美術館
55	水仙文花瓶	エミール・ガレ	1900年バリ万国博覧会出品モデル	フランス	1898-1900年	北澤美術館
56	花瓶「アイリスのつぼみ」	エミール・ガレ		フランス	1900年頃	北澤美術館
57	草花文筒形花瓶(クローバーとナデシコ)	エミール・ガレ	1900年バリ万国博覧会出品モデル	フランス	年記「1900」	北澤美術館
58	蘭文八角扁壺(カトレア)	エミール・ガレ	1900年バリ万国博覧会出品モデル	フランス	1900年頃	北澤美術館
59	ベゴニア文花瓶	エミール・ガレ	1900年バリ万国博覧会出品モデル	フランス	1900年頃	北澤美術館
60	フランスの薔薇文花瓶(ロサ・ガリカ)	エミール・ガレ		フランス	1902年頃	北澤美術館
61	魚文高脚杯	エミール・ガレ		フランス	1895-1904年	北澤美術館
62	クニダリア文花瓶	エミール・ガレ		フランス	1900-1904年	北澤美術館
63	羊歯文花瓶	エミール・ガレ		フランス	1900-1904年	北澤美術館
64	蘭文双耳花瓶	エミール・ガレ		フランス	1900-1904年	北澤美術館
65	シクラメン文百合口瓶	エミール・ガレ		フランス	1898年頃	北澤美術館
66	クロッカスまたはイスサフラン文百合口瓶	エミール・ガレ		フランス	1898-1904年	北澤美術館
67	紫陽花文花瓶	エミール・ガレ		フランス	1900-1904年	北澤美術館
68	オダマキ文筒形花瓶	エミール・ガレ		フランス	1898-1904年	北澤美術館
69	朝顔文鶴頸花瓶	エミール・ガレ		フランス	1898-1904年	北澤美術館 (阿部信博氏寄贈)
70	菊文鶴頸花瓶	エミール・ガレ		フランス	1896-1897年	北澤美術館 (阿部信博氏寄贈)
71	レマン湖文花瓶	ガレ社		フランス	1925-1936年	北澤美術館
72	象文花瓶	ガレ社		フランス	1927-1936年	北澤美術館
73	カラー文花瓶	ガレ社		フランス	1925-1936年	北澤美術館
第2章 ドーム兄弟						
74	扁壺《ロレーヌ公ルネII世》	ドーム兄弟		フランス	1895年	北澤美術館
75	ロレーヌ十字文瓶	ドーム兄弟		フランス	1897年頃	北澤美術館
76	ロレーヌ十字文酒器	ドーム兄弟		フランス	1891-1894年	北澤美術館
77	鷺文花瓶《アレリオン》	ドーム兄弟	1893年シカゴ万国博覧会出品モデル	フランス	1893年頃	北澤美術館
78	花瓶《ガラス吹き》	ドーム兄弟	1893年シカゴ万国博覧会出品モデル	フランス	1893-1894年	北澤美術館

作品番号	作品名称	作者・製作地	来歴など	国・時代	年代世紀	所蔵
79	チューリップ文花瓶	ドーム兄弟		フランス	1895年頃	北澤美術館
80	水辺の花文花瓶(コウホネ)	ドーム兄弟	1897年ブリュッセル万国博覧会出品モデル	フランス	1897年	北澤美術館
81	マーガレット文独楽形花瓶	ドーム兄弟	1897年ブリュッセル万国博覧会出品モデル	フランス	年記「1897」	北澤美術館
82	藤文筒形花瓶	ドーム兄弟	1900年パリ万国博覧会出品モデル	フランス	1900年	北澤美術館
83	矢車菊文耳付花瓶	ドーム兄弟	1900年パリ万国博覧会出品モデル	フランス	1899年	北澤美術館
84	クリスマスローズ文花瓶	ドーム兄弟	1900年パリ万国博覧会出品モデル	フランス	1898年	北澤美術館
85	スズラン文花瓶	ドーム兄弟	1900年パリ万国博覧会出品モデル	フランス	1898年	北澤美術館
86	アネモネ文花瓶	ドーム兄弟	ドーム家旧蔵	フランス	1900年	北澤美術館
87	花瓶《蜘蛛に刺草》	ドーム兄弟	1911年エビナル展、1913年ヘント万国博覧会出品作、ドーム家旧蔵	フランス	1910年頃	北澤美術館
88	「クロッカス」	ドーム兄弟		フランス	1900-1912年	北澤美術館
89	《睡蓮のつぼみ》	ドーム兄弟		フランス	1906年	北澤美術館
90	瓢箪形花瓶	ドーム兄弟		フランス	1910年頃	北澤美術館
91	ベリー文鉢(ヨーロピアン・デューベリー)	ドーム兄弟	ドーム家旧蔵	フランス	1910年頃	北澤美術館
92	樹林文花瓶(セイヨウシロヤナギ)	ドーム兄弟	1906年モデル	フランス	年記「1917」	北澤美術館
93	花鳥文角形花瓶《プレリアル》	ドーム兄弟		フランス	1900年	北澤美術館
94	花鳥文鶴頸花瓶《プレリアル》	ドーム兄弟		フランス	1900年	北澤美術館
95	花鳥文水差《プレリアル》	ドーム兄弟		フランス	1900年	北澤美術館
96	蜻蛉文鶴頸花瓶	ドーム兄弟		フランス	1904年頃	北澤美術館
97	蜻蛉文花瓶	ドーム兄弟		フランス	1904年頃	北澤美術館
98	ひまわり文花瓶	ドーム兄弟		フランス	1907年頃	北澤美術館
99	風雨樹林文筒形花瓶	ドーム兄弟		フランス	1903年頃	北澤美術館
100	風雨樹林文長頸花瓶	ドーム兄弟		フランス	1903年頃	北澤美術館
101	きのこ文花瓶	ドーム兄弟		フランス	1907年頃	北澤美術館
102	雪景文花瓶	ドーム兄弟		フランス	1902年頃	北澤美術館
103	雪景文耳付花瓶	ドーム兄弟		フランス	1902年頃	北澤美術館
104	風車文花瓶	ドーム兄弟		フランス	1899年頃	北澤美術館
105	雪景風車文花瓶《雪の夕暮》	ドーム兄弟		フランス	1905年頃	北澤美術館
106	雪景風車文卵形小花瓶《雪の夕暮》	ドーム兄弟		フランス	1905年頃	北澤美術館
107	すみれ文広口花瓶	ドーム兄弟		フランス	1905年頃	北澤美術館
108	すみれ文花瓶	ドーム兄弟		フランス	1905年	北澤美術館
109	すみれ文碗	ドーム兄弟		フランス	1905年	北澤美術館
110	すみれ文平鉢	ドーム兄弟		フランス	1905年	北澤美術館
111	すみれ文手付蓋物	ドーム兄弟		フランス	1905年	北澤美術館
112	すみれ文鶴頸小花瓶	ドーム兄弟		フランス	1905年頃	北澤美術館
113	すみれ文小水差	ドーム兄弟		フランス	1905年頃	北澤美術館
114	シネラリア文花瓶	ドーム兄弟		フランス	1920年	北澤美術館
115	ケシ文花瓶	ドーム兄弟		フランス	1905年	北澤美術館
116	セイヨウサンシュユ文扁壺	ドーム兄弟		フランス	1920年	北澤美術館
117	樹林文扁壺	ドーム兄弟		フランス	1908年	北澤美術館
118	風雨樹林文広口花瓶	ドーム兄弟		フランス	1903年頃	北澤美術館
119	湖景文広口花瓶	ドーム兄弟		フランス	1911年頃	北澤美術館
120	シクラメン文小水差と杯	ドーム兄弟		フランス	1901年頃	北澤美術館
121	草花文小杯	ドーム兄弟		フランス	1894-1903年	北澤美術館
122	ツメクサ文インク壺	ドーム兄弟		フランス	1899年頃	北澤美術館
123	ツメクサ文蓋付小水差	ドーム兄弟		フランス	1899年頃	北澤美術館
124	忘れな草文小花瓶	ドーム兄弟		フランス	1899年頃	北澤美術館
125	クリスマスローズ文小花瓶	ドーム兄弟		フランス	1897年	北澤美術館
126	アイリス文小花瓶	ドーム兄弟		フランス	1910年頃	北澤美術館
127	バラ文小花瓶	ドーム兄弟		フランス	1903年頃	北澤美術館
128	矢車菊文小花瓶	ドーム兄弟		フランス	1901年頃	北澤美術館
129	シクラメン文小花瓶	ドーム兄弟		フランス	1901年頃	北澤美術館
130	忘れな草文小鉢	ドーム兄弟		フランス	1899年頃	北澤美術館
131	ヒメヒマワリ文小鉢	ドーム兄弟		フランス	1923年頃	北澤美術館
132	モクセイソウ文小水差	ドーム兄弟		フランス	1902年頃	北澤美術館
133	ミニチュア木靴	ドーム兄弟		フランス	1895-1914年	北澤美術館
特別出品	『芸術の日本』	サミュエル・ピング編		フランス	1888-1891年	個人蔵

技法解説

ホットワーク　ガラスが熱いうちに装飾をほどこす技法

アプリケーション

ガラスを再加熱して表面をやわらかくし、そこに別のガラス塊を貼り付けることで立体的な装飾をつくり出す技法。高く盛り上げることで、立体感のあるダイナミックな表現を可能にする。一般的には冷却後にグラヴェールで表面を削り、細部を仕上げることが多いが、晩年のガレはあえてほとんど研削をほどこさずにガラスの流動感を残す表現を好んだ。

カボッション

アプリケーションの一種。ガラス表面に融けた色ガラスの雫を熔着して表面張力によって半球状の丸みを帯びたかたちにするもの。宝石のカボッションカットに似た効果が生じるためこの名がある。豪華さを増すためにガラスの下に金銀箔を挟むこともある。

げっこうしょく

月光色ガラス

ごく微量のコバルトで薄青色に着色した透明なガラス。1878年のパリ万国博覧会でガレが「月光色」の名で発表した。広く人気を博し、イギリスではムーンライト、ドイツではモントシャインと命名された類似品が登場したと言われる。

スモークガラス

褐色や深緑、グレー、麦わら色など、向こう側が透けて見える程度の濃さに染められた色ガラス。主にエナメル彩ガラスのベース素地として用いられる。

ブラスワーク

ガラスの表面に銅製のグラインダーでガラス表面を削り、模様や文字などを彫り込む彫刻技法。回転盤にガラスを押し付けて彫るカット技法に比べて非常に細かい部分まで表現できる。エッチングに対して「手彫り」と言われる。

ブラスワーク

コールドワーク　ガラスが冷えてから装飾をほどこす技法

エッチング（腐食彫り）

酸に溶けるガラスの性質を利用した化学的な彫刻法。模様として残したい部分に抗酸剤などを塗布して保護膜を作っておいてから、フッ化水素酸と硫酸の混合液にガラスを浸し、腐食させて彫り込む。ガラスの表面を滑らかに整えたり、ジヴレを作り出す際にも用いられる。主に量産品に用いられたが、エッチング液は毒性が強いため今ではほとんど用いられない。

グラヴェール（手彫り）

研磨剤をつけた銅製のグラインダーでガラス表面を削り、模様や文字などを彫り込む彫刻技法。回転盤にガラスを押し付けて彫るカット技法に比べて非常に細かい部分まで表現できる。エッチングに対して「手彫り」と言われる。

エッチング

技法解説は、『北澤美術館コレクション選集　アール・ヌーヴォー、アール・デコのガラス芸術』北澤美術館（2017）と『北澤美術館名品展　エミール・ガレとドーム』茨城県陶芸美術館（2022）を元に作成した。

アンテルカレール

透明なガラスの下にエナメル彩で描いた図柄や色ガラスによる装飾を挟み込み、器体の表層に彫刻をほどこして模様を重ねり合ってみるようになるサンドイッチ技法。ドームが特許を取得したが、ガレの作品にも同様の原理を用いた技法が使われている。

被せガラス

色の異なるガラス層を重ねて吹いたガラス。グラヴェールもしくはエッチングにより上層を部分的に削り取り、浮彫り（カメオ彫り）や沈み彫り（インタグリオ）を生み出す。色素地同士の膨張係数が合わないと、徐冷の際に歪が生じて破損の恐れがあるため、難易度が高い技法のひとつ。

コアガラス

古代メソポタミアやエジプトで発達した、世界最古のガラス容器の制作技法。金属棒に耐火粘土や獣糞などを被せて芯（コア）をつくり、そのまわりを本体となる色ガラスを巻きながら巻きとり、その上に別の色ガラスを巻き付けて、冷却後に棒を引き抜いて内側の芯を掻き出して成形する。

吹きガラス

古代ローマで大きく発達した、ガラス容器の制作技法。宙吹きと型吹きに大別される。宙吹きは、融かしたガラスを吹棒と呼ばれるパイプに巻き取り、形を整えながら息を吹き込んで風船のように膨らませる。型吹きは、金属や木であらかじめ型を用意し、吹棒に巻き取ったガラスを型の中に入れ、息を吹き込み膨らませて型取りする。形を整えたら器の底に棒（ポンテ）を付けた上で吹棒を切り離してから口の部分を整える。成形後にポンテを外し、徐冷する。

エッチング

エナメル彩　色ガラスの粉末を含んだ顔料を油性の溶剤で溶かし、ガラス表面に絵付けを行う方法。絵付け後、500～700度の低温で焼成すると、釉薬が融けてガラス面に固着し、剥落や退色のおそれがない。絵画のように筆で描くため、繊細な描写が可能。フランス語でエマイユ（複数形:エモー）と称する。とくにイスラーム・ガラスで多用され、アール・ヌーヴォーのガラスにも大きな影響を与えた。

ジヴレ

霧氷に覆われたような地文のこと。表面仕上げの一種。エッチングでガラスの表面を腐食させることで生み出される。主にドーム兄弟の初期作品にみられる。

ヴェトリフィケーション

吹棒に巻き取ったガラス種をある程度吹いた状態で、台の上で転がしながらガラス素地に色ガラスの粒をまぶし付けた後、再び炉の中に入れて素地によくなじませて多色の色が混じり合った華やかな地文をつくり出す技法。エッチングでカメオ彫りすることで、本格的な被せガラスと同様の効果が比較的容易に出せる。ドーム社が1900年頃に導入した画期的な加飾法。

金属酸化物封入

ガラスのなかに大理石や天然水晶のようなまだら模様を生じさせるために、金属酸化物の粉を直接ガラス種にまぶし付け、素地の間に挟み込む技法。酸化物として用いられる金属は、銅や鉄、アンチモン、コバルト、マンガンなどが一般的である。

サリッシュール

成形時に酸化銅などの金属酸化物の粉末をまぶし付けて素地に練り込むことで、天然石のようなまだら模様を作り出す技法。とくに、透明なガラスにまだら模様を入れる技法を指す。本来、サリッシュールは不純物によって生じた汚れを意味する言葉であったが、ガレはこれを装飾に生かし、天然石のような質感を持つ「模玉ガラス」を生み出した。

マルケットリー

あらかじめモティーフの形に整えたガラス片を、熔けたガラス表面に貼り付け、再度加熱処理して素地に均し込み、色模様をつくり出す象嵌装飾。「マルケットリー」は奇木細工を指す言葉であったが、木工家具も手掛けていたガレが「ガラスとクリスタルのマルケットリー」と名付けて1898年に特許登録した。ガレ社以外には真似のできない高度な装飾技法。

エモー・ヴィジュー

エナメル技法の一種。フランス語で宝石七宝を意味する。金・銀・プラチナ泥をガラス表面に置き、その上に半透明あるいは無色のエナメルをかけて低温度で焼成する技法。宝石のように輝くことからこの名がある。ガレが得意とした高度な技法。

エッチング

ダイヤモンドポイント　ダイヤモンドやガーネットなど、硬度の高い鉱物の細片を付けた道具で、点刻や線刻などの細やかな模様をほどこす技法。繊細で絵画的な表現が可能。

オパールセント・ガラス

オパールに似た青味を帯びた乳白色のガラス。ガラス原料にリン酸塩やフッ素、酸化アルミニウム、微量のコバルトなどを混ぜ、成形後にもう一度加熱することで白く発色する。17世紀のヴェネツィアにはじまり、19世紀フランスでも流行した。

エッチング

ガラスの間に金や銀、あるいはプラチナの箔を挟む、あるいはエナメルの下に箔を貼り付けるなど、貴金属の箔を用いて見た目の豪華さを演出する手法を用いた。ただし、金属箔の種類は上層のガラスやエナメルの色彩で正確な判断が付きにくい。そのため、本展では判断可能な場合を除き、この用語を用いる。

スフレ

型吹きの種類。木や粘土、金属でつくった型の内側にあらかじめレリーフを陰刻しておき、そのなかに吹棒でガラス種を吹き込んで成形する技法。ガラスに転写されたモティーフがレリーフとなる。

ラメル

色ガラス剥片を意味する言葉で、地の表面に貼り付け部分的に被せガラスにする加飾技法。花びらなど装飾のポイントとなる箇所にラメルを貼り付けた上で丁寧な手彫りをほどこすことで、エッチング加工の作品に高級感を醸し出すことができる。ドーム社が得意とした技法の一つ。

カットガラス

グラインダーと呼ばれる円盤を回転させて加工を行う電動工具と研磨剤を使い、ガラスの表面にさまざまなパターンを彫り込む技法。出したいカット面の形状に合わせることで多様な形状のグラインダーを使い分ける。

エッチング

マルトレ　金槌（ハンマー、フランス語の「マルトール」）で叩いたような地文のこと。表面仕上げの一種。ガラスを回転盤に押し付け表面を荒く研削することで生み出される